

学校関係者評価委員会

1 実施日 令和6年1月18日(火) 16時00分～17時00分

2 会場 図書室

3 参加者 【学校関係者評価委員】

小野 和明(教育振興会会長) 穂坂 暦広(教育振興会副会長)

志村 勇 (教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)

中澤 克明(百々育成会会長) 福井 健司(主任児童委員)

清水 良一(P T A会長) 中澤 知都(P T A副会長)

【学校】 小田切英史(校長) 村田真由美(教頭)

三枝 秀明(教務主任) 川名 宏毅(生徒指導主事)

4 学校側から提案された内容

(1) 教職員自己評価(教務主任) (2) 児童アンケート(生徒指導主任)

(3) 保護者アンケート(教頭)についての解説や考察

5 協議された主な内容

※○……委員からの意見・感想 →……学校の考え

(1) 教職員について

○重複する項目がいくつかあり、26項目は多すぎるように感じる。内容を精選することで、よりわかりやすいアンケートになるのではないかと考える。

→児童アンケートおよび保護者アンケートの内容項目をリンクさせ、わかりやすい項目に更新していきたいと考えます。

○御勅使スタンダードとは何か、教えてほしい。

→御勅使スタンダードとは、白根御勅使中学校、白根源小学校、そして本校の三校で統一した児童生徒指導におけるきまりや連携した教育活動のことです。校則の改定と同様に、「御勅使スタンダード」を時代に合わせたものに、児童生徒の意見や考えを取り入れながら改めていきます。また、小中学校9年間だけでなく長い目で児童の将来について想像し、小学校段階で身に付けておきたいことを意識しながら教育活動を行っていきます。

○今の子どもたちはどんな感じか、教えてほしい。リーダー気質の子どもが少ない気がする。

→本校の子どもたちは、とても人懐っこく素直です。また、真面目であり、繊細な面も持っています。授業や課題に真剣に取り組み、些細なことにも気づく感受性の豊かさがあります。さらに、多様性に富んでいることも、現在の子どもたちの特徴です。家庭環境や育った環境が異なる子どもたちが、学校で共に学ぶことで、多様な価値観や考え方に触れ、自分とは違う意見や考え方を尊重できるようになっています。そして、様々な学びに向かう好奇心は、とても高いと感じます。新しいことに積極的に挑戦し、学びを深めようとする姿勢は、これからの社会を生きていくために必要な力です。しかし、一方で、ご指摘のとおり、リーダー気質の子どもが減っているように感じます。子どもたちがリーダーシップを発

揮できる子どもを育てていく必要がありますので、失敗を恐れず、チャレンジする機会をたくさん提供していきたいと考えています。

(2) 児童・保護者について

○アンケート項目の「学校が楽しいですか」について、児童・保護者ともに否定的回答が危惧されるのであった。しかし、学校が楽しいと感じるためには、児童自身が主体的な行動を行うことが重要であると考えられる。そのためには、児童自らが考えたことをアウトプットする機会を設けたり、自主学習も自主的なやり方を取り入れたりすることが有効であろう。

→児童が学校を楽しんでいるためには、主体的な行動を行うことが重要であるという意見は、その通りであると思います。児童が主体的に行動することで、学習に意欲を持ち、自らの成長を実感することができます。また、他者と協働する機会も増え、社会性を育むことができます。そのためには、グループワークやプレゼンテーションなどの活動を増やしたり、児童が自分の興味や関心に合わせて学習内容や方法を選択できる授業を進めたりしていきます。児童・保護者・教員が協力して、学校が楽しいと感じられる環境を創り出していきます。

○「あいさつ」について、たくさんのご意見をいただきました。

- ・コロナ禍で、あいさつが推奨されなかった空白の3年間がある。この期間に根付いてしまったあいさつをしない習慣を、教育で解消してほしい。

- ・知らない人＝不審者と考えてしまう子どももいる。また、大人があいさつをしない、できない状況もある。そのような状況でも、知っている人には積極的にあいさつができる児童であってほしい。

- ・あいさつは、児童から先にしてくれると嬉しい。大人からも率先して行いたい。

- ・あいさつに関する自由記述のアンケート結果を教えてください。

→貴重なご意見、ありがとうございます。コロナ禍において、大きな声でのあいさつを控える習慣が根付いてしまった児童がいることは、残念ながら事実です。このような状況を解消するために、学校教育においては、あいさつの意義や大切さを改めて伝えるとともに、あいさつを積極的に行うように指導していきます。子どもたちが元気に明るくあいさつができるように、学校や地域での取り組みを進めていきたいと思っています。

○地域は、子どもたちの健全な成長と地域の活性化のために、学校教育を全面的に応援したいと考えている。地域と学校が協力して、子どもたちの教育をより充実させていくことで、子どもたちが健全に成長していく。そのために、まず、ボランティア活動を推進することで、子どもたちに奉仕の心を育ててほしい。次に、道徳の授業を通して、奉仕の心の教育をすることで、「自分以外の人のために何かをしたい」という気持ちを持つ子どもの育成をお願いしたい。

→地域の方々のご協力に、心から感謝申し上げます。今後も、地域の理解と協力を得ること、学校と地域の信頼関係を築くこと、学校運営に地域の力を活かすことに、さらに力を注いでいきます。そして、学校教育目標「ふるさとを愛し、夢を育む、賢く優しくたくましい子」の育成に努めていきたいと思っています。

まとめ

本年度の学校評価では、概ね肯定的な評価がされ、特に以下の点について高い評価が得られました。

生徒の学力と学習意欲の向上、教職員の指導力の向上、これらの評価は、本校の教育活動が安定して行われていることを示しており、教職員一同、喜んでおります。一方で、課題が残る項目については、学校全体で真摯に受け止め、検討を重ね、重点的に取り組んでいきたいと考えています。